

近畿厚生局長 殿

開設者名

公立大学法人奈良県立医科大学  
理事長 吉岡 章



奈良県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	76人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	493人	17.0人	510.0人	看護補助者	75人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	30人	0.2人	30.2人	理学療法士	13人	臨床検査技師	74人
薬剤師	56人	4.3人	60.3人	作業療法士	6人	臨床検査衛生検査技師	2人
保健師	0人	0.0人	0.0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助産師	40人	1.7人	41.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧	1人
看護師	873人	29.2人	902.2人	臨床工学技士	33人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	5人	2.1人	7.1人	栄養士	0人	その他の技術員	24人
歯科衛生士	2人	0.0人	2.0人	歯科技工士	3人	事務職員	253人
管理栄養士	9人	0.0人	9.0人	診療放射線技師	50人	その他の職員	0人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	736.0人	15.2人	751.2人
1日当たり平均外来患者数	1,362.8人	69.6人	1,432.4人
1日当たり平均調剤数	2,884.7剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療 該当なし

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	35人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	67人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	78人	・原発性胆汁性肝硬変	76人
・全身性エリテマトーデス	224人	・重症急性膵炎	16人
・スモン	12人	・特発性大腿骨頭壊死症	81人
・再生不良性貧血	47人	・混合性結合組織病	30人
・サルコイドーシス	69人	・原発性免疫不全症候群	6人
・筋萎縮性側索硬化症	37人	・特発性間質性肺炎	20人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	197人	・網膜色素変性症	15人
・特発性血小板減少性紫斑病	64人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	61人	・肺動脈性肺高血圧症	17人
・潰瘍性大腸炎	223人	・神経線維腫症	21人
・大動脈炎症候群	23人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	40人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	26人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7人
・脊髄小脳変性症	77人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	68人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	21人	・脊髄性筋委縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	324人	・球脊髄性筋委縮症	3人
・アミロイドーシス	18人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	12人
・後縦靭帯骨化症	64人	・肥大型心筋症	19人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	51人	・ミトコンドリア病	5人
・ウェゲナー肉芽腫症	5人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	93人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	50人	・黄色靭帯骨化症	6人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	94人

1,981人

457人

2,438人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・乳がんセンチネルリンパ節加算2	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・眼底三次元画像解析	・
・超音波骨折治療法	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・インプラント義歯	・
・腹腔鏡補助下臍体尾部切除・核出術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	概ね週1回
剖 検 の 状 況	剖検症例数            35例        /        剖検率            6.80%

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
若手研究(B)『心臓MRIによるミトコンドリア心筋症の病態解明』	岡山 悟志	第1内科	981,000	補 委 文部科学省
難治性疾患等克服研究事業『特発性心筋症に関する調査研究』	斎藤 能彦 (研究分担者)	第1内科	1,000,000	補 委 厚生労働省
循環器病研究開発費事業Z3-3-2『重症循環器疾患に対する生理活性ペプチドのトランスレーショナルリサーチ』	斎藤 能彦 (研究分担者)	第1内科	1,500,000	補 委 独立行政法人国立循環器病研究センター
循環器病研究開発費Z4-4-1『糖尿病患者における心血管疾患予防の最適化に関する研究』	斎藤 能彦 (研究分担者)	第1内科	500,000	補 委 独立行政法人国立循環器病研究センター
循環器病研究開発費Z4-4-2『本邦におけるHFpEFの実態に関する多施設共同調査研究』	斎藤 能彦 (研究分担者)	第1内科	1,000,000	補 委 独立行政法人国立循環器病研究センター
平成24年度特定研究助成『超巨大VWF多重体活性の制御機構を利用した新規動脈血栓症の予防・治療法の開発』	斎藤 能彦 (研究分担者)	第1内科	5,000,000	補 委 公益財団法人武田科学振興財団
2012年度内藤記念科学奨励金・研究助成『心腎連関分子機序の解明とそれを用いた新しい医療法の開発』	斎藤 能彦	第1内科	3,000,000	補 委 公益財団法人内藤記念科学振興財団
呼吸不全に関する調査研究	木村 弘	第二内科	800,000	補 委 厚生労働省
肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する防風通聖散及び大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明	木村 弘	第二内科	200,000	補 委 厚生労働省
睡眠呼吸障害による生活習慣病に関する医療情報提供とその効果の評価	木村 弘	第二内科	300,000	補 委 厚生労働省
呼吸不全、肥満低換気症候群における急性増悪は低酸素化学感受性の低下が関与する	木村 弘	第二内科	1,300,000	補 委 日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患に対する新規栄養療法の開発：進行抑制から発症予防までをめざして	吉川雅則	第二内科	1,560,000	補 委 日本学術振興会
肺胞壁断裂の機序解明への新たなアプローチ：加齢による肺の力学機能低下を探る	友田恒一	第二内科	1,560,000	補 委 日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患・表現型規定因子の探求一日米比較研究からの発信	山本佳史	第二内科	2,340,000	補 委 日本学術振興会
慢性肝疾患進展制御法の確立；効果予測に基づく個別化医療	吉 治 仁 志	第3内科	1,430,000	補 委 科学研究費補助金
エンドトキシン・自然免疫系を介する腸肝相の解明	福 井 博	第3内科	1,690,000	補 委 科学研究費補助金
自己貧食空砲性ミオパチーの臨床病態解析とオートファジーの分子機構の解明(若手研究B)(直接経費)	杉江 和馬	神経内科	800,000	補 委 文部科学省
自己貧食空砲性ミオパチーの臨床病態解析とオートファジーの分子機構の解明(若手研究B)(間接経費)	杉江 和馬	神経内科	72,000	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
希少難治性筋疾患に関する調査研究	杉江 和馬	神経内科	6,000,000	補 委 厚生労働省
伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業	中瀬 裕之	脳神経外科	12,000,000	補 委 名張市
内在性神経幹細胞を利用した脳静脈虚血治療の研究	竹島 靖浩	脳神経外科	780,000	補 委 日本学術振興会
超巨大VWF多重体活性の制御機構を利用した新規動脈血栓症の予防・治療法の開発	中瀬 裕之	脳神経外科	1,000,000	補 委 武田科学振興財団
三次元培養心筋組織の作成：伸展刺激による細胞の配行と成熟、収縮力の増強	谷口 繁樹	胸部・心臓 血管外科	1,300,000	補 委 日本学術振興会
カルパイン阻害剤による心保存後の虚血再灌流障害予防効果に関する研究	吉川 義朗	胸部・心臓 血管外科	1,430,000	補 委 日本学術振興会
独創的な組織工学技術を用いた人工気管作成の試み	内藤 洋	胸部・心臓 血管外科	1,040,000	補 委 日本学術振興会
腱・靭帯付着部症に対する神経要素の動態とヒアルロン酸の治療効果に関する研究	熊井 司	スポーツ医学	1,950,000	補 委 文部科学省
担がん患者の骨微小環境の解析と間葉系幹細胞の病態への動的関与	城戸 顕	整形外科	2,730,000	補 委 文部科学省
骨腫瘍に対する患肢温存を目的とした細胞活性を有した液体窒素処理骨移植法の開発	藤間 保晶	整形外科	910,000	補 委 文部科学省
再生医療技術を用いた同種骨移植の再活性化に関する研究	田中 康仁	整形外科	910,000	補 委 文部科学省
骨髄間葉系幹細胞を用いた血管柄付き自家骨置換型人工骨の開発	村田 景一	整形外科	1,040,000	補 委 文部科学省
再生医療技術を応用した四肢の拘縮性偽関節の治療に関する研究	面川 庄平	整形外科	1,430,000	補 委 文部科学省
難治性骨折(偽関節)に対するヒト骨髄細胞シートを用いた低侵襲治療手技の開発に関する研究	上羽 智之	整形外科	4,900,000	補 委 厚生労働省
高骨形成能型培養人工骨を用いた外傷後骨欠損に対する治療法の開発	上羽 智之	整形外科	1,000,000	補 委 全国共済農業協同組合連合会
口腔がんにおける遺伝子修復機構を標的とした抗がん剤増感の研究	桐田 忠昭	口腔外科	1,690,000	補 委 日本学術振興会
マイクロRNAの制御を介した新たな口腔癌治療法の開発	山本 一彦	口腔外科	2,600,000	補 委 日本学術振興会
関節滑膜細胞におよぼす伸展ストレスの影響；酸化ストレスと遺伝子発現の誘導	川上 哲司	口腔外科	780,000	補 委 日本学術振興会
上顎の形成過程におけるWntシグナリングの役割	川上 正良	口腔外科	1,950,000	補 委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
即時・早期荷重インプラントの周囲骨の治癒にオーバーロードが及ぼす影響	杉浦 勉	口腔外科	2,080,000	補委 日本学術振興会
早期荷重インプラントにおけるオッセオインテグレーション獲得のための微小動揺の閾値	村上 和宏	口腔外科	1,560,000	補委 日本学術振興会
口腔がんにおけるmicroRNAの抗がん剤抵抗性への関与の検討	山川 延宏	口腔外科	1,950,000	補委 日本学術振興会
乳歯歯髓由来細胞による唇顎口蓋裂患者の顎裂治療	柳生 貴裕	口腔外科	1,040,000	補委 日本学術振興会
Trksを標的とした口腔癌の抗血管新生・リンパ管新生療法の試み	上田 順宏	口腔外科	1,430,000	補委 日本学術振興会
口腔がんに対するMICA遺伝子に関連した新規ペプチドワクチンの同定	玉置 盛浩	口腔外科	1,560,000	補委 日本学術振興会
DNA修復経路を標的とした口腔腫瘍温熱細胞死の基礎的研究	梶原 淳久	口腔外科	1,690,000	補委 日本学術振興会
卵巣明細胞腺癌の抗癌剤耐性克服による新規治療法の開発	金山 清二	産婦人科	1,700,000	補委 日本学術振興会
卵巣明細胞腺癌におけるDNAチェックポイント機構制御の解明と新規治療戦略の構築	重富 洋志	産婦人科	1,700,000	補委 日本学術振興会
子宮頸管粘液を用いた新規妊娠高血圧症候群予知マーカーの開発	常見 泰平	産婦人科	1,600,000	補委 日本学術振興会
鉄の酸化ストレスによる子宮内膜症のがん化機序の解明とモデル動物の樹立	小林 浩	産婦人科	5,070,000	補委 日本学術振興会
羊水塞栓症の致死的原因における胎便の役割を解明する	大井 豪一	産婦人科	1,690,000	補委 日本学術振興会
発現タンパクの機能制御に基づいた婦人科がんの分子標的治療戦略	古川 直人	産婦人科	910,000	補委 日本学術振興会
大豆蛋白を用いた早産予防薬の開発	佐道 俊幸	産婦人科	650,000	補委 日本学術振興会
酸化ストレスをターゲットにした卵巣明細胞腺癌の治療戦略	吉田 昭三	産婦人科	650,000	補委 日本学術振興会
プロテオーム解析による子宮内膜症からの卵巣癌発生機序の解明	川口 龍二	産婦人科	1,040,000	補委 日本学術振興会
高齢者の視機能と眼疾患における全身因子および色素上皮由来因子の関与	緒方 奈保子	眼科	4,100,000	補委 文部科学省
ハイドロゲルレンズフィル後の屈折、調整の評価	松浦 豊明	眼科	4,000,000	補委 文部科学省
血友病の治療とその合併症の克服に関する研究	嶋 緑倫	小児科	14,000,000	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小児新生児期における遺伝性血栓症(プロテインC異常症を含む)の効果的診断と治療予防法の確立に関する研究	嶋 緑 倫	小児科	200,000	補 委 厚生労働省
小児新生児期における遺伝性血栓症(プロテインC異常症を含む)の効果的診断と治療予防法の確立に関する研究	高橋 幸博	NICU	200,000	補 委 厚生労働省
小児出血・血栓性疾患診療の向上と均てん化を目的とした治療管理マニュアルの作成と教育研修法の開発	嶋 緑 倫	小児科	4,650,000	補 委 平成24年度成育医療研究開発費
凝固第VIII因子活性化/不活化機構の解明と凝固/抗凝固療法の応用に関する研究	野上 恵嗣	小児科	2,730,000	補 委 平成24年度科学研究費助成事業 基盤研究*
第V因子の抗凝固機能と小児血栓性疾患との関連についての基礎的研究	荻原 建一	小児科	2,730,000	補 委 平成24年度科学研究費助成事業 基盤研究*
小児難治性てんかんにおける脳形成異常発生病態解明のための生物化学的研究	榊原 崇文	小児科	1,040,000	補 委 平成24年度科学研究費助成事業 若手研究(B)
超巨大VWF多重体活性の制御機構を利用した新規動脈血栓症の予防・治療法開発 利用した新規動脈血栓症の予防・治療法開発 利用した新規動脈血栓症の予防・治療法開発	嶋 緑 倫	小児科	1,000,000	補 委 平成24年度武田科学振興財団特定研究助成(公益財団法人武田科学振興財団)
新たに確立したトロンビン・プラスミン生成測定法による血友病患者における凝固線溶能の評価	野上 恵嗣	小児科	1,000,000	補 委 平成24年度バクスター凝固関連研究基金(BCRF)
血友病Aの国際ITI研究実施患者を対象とした追跡調査研究	吉岡 章	小児科	5,000,000	補 委 血友病インヒター製剤調査研究費(公益財団法人血液製剤調査機構)
5-アミノレブリン酸(5ALA)による蛍光膀胱鏡を用いた膀胱癌の光力学診断に関する多施設共同試験	藤本 清秀	泌尿器科学	34,000,000	補 委 日本医師会
睡眠障害は夜間頻尿の原因になるか	平尾 佳彦	泌尿器科学	500,000	補 委 文部科学省
地域高齢者の夜間頻尿が睡眠に及ぼす影響に関する研究	平山 暁秀	泌尿器科学	1,300,000	補 委 文部科学省
多発性嚢胞腎の細胞マトリック接着応答とエピジェネティクス修飾による治療法の研究	石橋 道男	泌尿器科学	1,500,000	補 委 文部科学省
がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動	藤本 清秀	泌尿器科学	1,000,000	補 委 文部科学省
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	藤本 清秀	泌尿器科学	400,000	補 委 厚生労働省
高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	藤本 清秀	泌尿器科学	130,000	補 委 厚生労働省
5-アミノレブリン酸が誘導する光学的反応を用いた尿中剥離腫瘍細胞検出装置の開発	藤本 清秀	泌尿器科学	300,000	補 委 奈良県健康づくり財団
女性の過活動膀胱患者におけるβ3受容体作動薬と抗コリン薬のクロスオーバー法による無作為2群割付け比較試験	鳥本 一匡	泌尿器科学	2,100,000	補 委 アステラス製薬(株)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
下部尿路障害領域の疾患の新規創薬候あるいはバイオマーカー候補探索	藤本 清秀	泌尿器科学	2,000,000	補 委 小野菜品工業(株)
超音波聴覚のメカニズムと最重度難聴者のための超音波補聴システムの実用化研究	細井 裕司	耳鼻咽喉・頭頸部外科	3,900,000	補 委 文部科学省
最重度平衡障害に対する感覚代行治療—実用化に向けた効果メカニズムの解明—	山中 敏彰	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,170,000	補 委 文部科学省
頭頸部癌の浸潤・転移におけるEMTによる癌幹細胞活性化機構の解明	太田 一郎	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,690,000	補 委 文部科学省
軟骨伝導を用いた新しい補聴器の開発	西村 忠己	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,690,000	補 委 文部科学省
視運動性眼球運動に関与する神経機構の解明-遺伝子工学的アプローチ-	清水 直樹	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,040,000	補 委 文部科学省
骨導超音波補聴器の実用化に向けた語音聴力の検討	山下 哲範	耳鼻咽喉・頭頸部外科	910,000	補 委 文部科学省
時系列の聴覚表象に頑健性を与える知覚属性間の相互作用に関する心理物理的研究	松井 淑恵	耳鼻咽喉・頭頸部外科	650,000	補 委 文部科学省
新しい音伝導ルート(軟骨伝導)を用いた両耳装用補聴器の開発	下倉 良太	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,690,000	補 委 文部科学省
平衡・運動機能に対する平衡代行システムの効果検証と実用化	山中 敏彰	耳鼻咽喉・頭頸部外科	500,000	補 委 科学技術振興機構
医療・介護・保険分野の業種連携プラットフォーム構築推進(健康寿命を伸ばそう)	山中 敏彰	耳鼻咽喉・頭頸部外科	502,000	補 委 経済産業省
8th International Conference on Head and Neck Cancer: Snail regulates MMP-dependent invasive activities through cancer cell EMT programs in head and neck cancer cells	太田 一郎	耳鼻咽喉・頭頸部外科	100,000	補 委 奈良県立医科大学
Association for Research in Otolaryngology 36th MidWinter Meeting Development of cartilage conduction hearing aid (3) - Monosyllable intelligibility in the noisy condition-	下倉 良太	耳鼻咽喉・頭頸部外科	300,000	補 委 公益財団法人長寿科学振興財団
軟骨伝導を用いた補聴システムの開発と評価	細井 裕司	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,000,000	補 委 財団法人大阪難病研究財団
拡散テンソル線維路解析とサポートベクトルマシンによるアルツハイマー病の早期診断	田岡 俊昭	中央放射線部	2,210,000	補 委 文部科学省
進行膀胱癌に対するIVR技術を駆使した新規治療法の開発	田中 利洋	放射線科	3,120,000	補 委 文部科学省
MRIの分子画像を用いた肝腫瘍に対する分子標的治療薬の早期治療効果診断	西尾 福英之	放射線科	1,560,000	補 委 文部科学省
有効なIVR手技の開発と標準化のための他施設共同研究	穴井 洋	放射線科	1,000,000	補 委 国立がん研究センター

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経系腫瘍幹細胞の放射線抵抗性と分化に対する重粒子線照射の影響	長谷川正俊	放射線腫瘍医学	5,330,000	補委 日本学術振興会
モバイル端末を用いた画像誘導放射線治療時代の遠隔放射線治療支援方法の確立	玉本哲郎	放射線腫瘍医学	780,000	補委 日本学術振興会
画像誘導放射線治療および適応放射線治療における機能画像応用の検討	浅川勇雄	放射線腫瘍医学	650,000	補委 日本学術振興会
モサプリドを利用した腸管再生・新生法	藤井久男	中央内視鏡・超音波部	1,430,000	補委 文部科学省
脊髄虚血後のミクログリア活性化制御による神経保護効果に関する検討	川口昌彦	麻酔科学教室	1,040,000	補委 日本学術振興会
全脳虚血に対するβブロッカーの脳保護に関する研究	井上聡己	麻酔科学教室	650,000	補委 日本学術振興会
ラット前脳虚血モデルにおけるプロピルガレートの脳保護効果に関する研究	河野安宣	集中治療部	1,040,000	補委 日本学術振興会
オピオイドが癌細胞の抗ガン剤感受性を低下させるか？	瓦口至孝	中央手術部	2,210,000	補委 日本学術振興会
開頭手術における運動誘発電位モニタリングに関する検討	阿部龍一	中央手術部	650,000	補委 日本学術振興会
敗血症に対するADAMTS13の効果	西尾健治	総合診療科	1,000,000	補委 日本学術振興会
統合失調症患者における包括的禁煙対策の確立	岸本年史	精神科	4,200,000	補委 厚生労働省
治療抵抗性統合失調症に対する治療戦略のためのデータベース構築に関する研究	岸本年史	精神科	400,000	補委 厚生労働省
精神疾患患者に対する早期介入とその普及啓発に関する研究	岸本年史	精神科	700,000	補委 厚生労働省
児童青年精神科領域における診断・治療の標準化に関する研究	飯田順三	精神科	500,000	補委 厚生労働省
ICT教材を用いた支援者養成による発達障害児支援プログラムの開発と実践	飯田順三	精神科	1,500,000	補委 文部科学省
ICT教材を用いた支援者養成による発達障害児支援プログラムの開発と実践	太田豊作	精神科	200,000	補委 文部科学省
統合失調症における補体制御因子機能とシナプスプルーニング機構解析	岸本年史	精神科	1,820,000	補委 文部科学省
主観的認知障害発症へのメタボリック症候群の影響に関する研究 —高齢者コホート研究	森川将行	精神科	4,290,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳梗塞後うつ病に対する客観的指標の確立	安野史彦	精神科	1,820,000	補委 文部科学省
ADHDにおける近赤外線スペクトロスコピーによる薬物療法の客観的評価の研究	太田豊作	精神科	100,000	補委 文部科学省
時間的・空間的遺伝子発現システムと環境要因操作による統合失調症モデルマウスの開発	深見伸一	精神科	2,080,000	補委 文部科学省
人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた培養系精神疾患モデルの確立	鳥塚通弘	精神科	1,300,000	補委 文部科学省
平成24年度奈良県自殺未遂者支援・調査事業	岸本年史	精神科	6,893,000	補委 奈良県
統合失調症の認知機能リハビリ用ソフト開発とその効果検討	松田康裕	精神科	1,500,000	補委 (財) 阪本精神病理学研究所平成24年度精神病理学研究助成金
臓器受容および組織再生における血管新生機構の包括的解明と新規免疫制御法の開発	中島祥介	消化器・総合外科	3,770,000	補委 文部科学省
組織工学と多能性幹細胞の腸管分化誘導技術を融合した新しい腸管移植法の開発	金廣裕道	消化器・総合外科	2,730,000	補委 文部科学省
消化器癌における腫瘍特異的メモリー細胞能動的誘導法の開発	庄雅之	消化器・総合外科	2,080,000	補委 文部科学省
膵癌におけるHMG B-1の役割解明と新規標的治療の開発	赤堀宇広	消化器・総合外科	2,210,000	補委 文部科学省
エリスロポエチンの炎症性腸疾患に対する新規治療の可能性	中村信治	消化器・総合外科	1,170,000	補委 文部科学省
肝細胞癌のT細胞不活化経路を標的とした癌治療法の臨床導入を目的とした研究	北東大督	消化器・総合外科	1,950,000	補委 文部科学省
新たなT細胞不活化経路を標的とした癌治療法の臨床導入を目的とした研究	右田和寛	消化器・総合外科	1,950,000	補委 文部科学省
GVHDを病態モデルとして利用したDIHSにおけるHHV-6再活性化機序の解明	浅田秀夫	皮膚科	1,950,000	補委 日本学術振興会
薬剤によるcAMP濃度上昇、CREB活性化と皮膚および神経系細胞のDNA修復亢進	小林信彦	皮膚科	1,690,000	補委 日本学術振興会
GVHDモデルマウスにおける細胞障害性T細胞を制御する転写因子の同定(2012年)	宮川史	皮膚科	2,080,000	補委 日本学術振興会
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	浅田秀夫	皮膚科	2,500,000	補委 厚生労働省
小豆郡における帯状疱疹発症の大規模疫学研究	浅田秀夫	皮膚科	2,000,000	補委 厚生労働省

研 究 課 題 名	研究者氏名	所属部門	金 額	補助元又は委託元
画期的経皮免疫製剤の開発と実用化に資する研究の総合的推進	浅田 秀夫	皮膚科	3,500,000	補 委 医薬基盤研究所
				補 委

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



小計

| 18

小計

| 18

小計

| 18



|

小計

| 18

|

小計

| 18

|

小計  
| 1  
計  
127

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Am J Cardiol. (2012年)	Comparison of incidence and time course of neoatherosclerosis between bare metal stents and drug-eluting stents using optical coherence tomography.	Yonetsu T, Uemura S (14authors, 11th)	第 1 内科
Circ Cardiovasc Imaging. (2012年)	Predictors for neoatherosclerosis: a retrospective observational study from the optical coherence tomography registry.	Yonetsu T, Uemura S (16authors, 9th)	第 1 内科
Eur Heart J. (2012年)	Thin-Cap Fibroatheroma and Microchannel Findings in Optical Coherence Tomography Correlate with Subsequent Progression of Coronary Atheromatous Plaques.	Uemura S	第 1 内科
J Am Coll Cardiol. (2012年)	Consensus standards for acquisition, measurement, and reporting of intravascular optical coherence tomography studies: a report from the International Working Group for Intravascular Optical Coherence Tomography Standardization and Validation.	Tearney GJ, Uemura S (72authors, 63rd)	第 1 内科
Vasc Health Risk Manag. (2012年)	Major risk factors for the appearance of white-matter lesions on MRI in hypertensive patients with controlled blood pressure.	Takami T, Saito Y (8 authors, 8th)	第 1 内科
PNAS. (2012年)	Imem100, an ALK1 receptor signaling-dependent gene essential for arterial endothelium differentiation and vascular morphogenesis.	Somekawa S	第 1 内科
Nephron Clin Pract. (2012年)	Clinical significance of fibroblast-specific protein-1 expression on podocytes in patients with focal segmental glomerulosclerosis.	Samejima K	第 1 内科
Radiol Res Pract. (2012年)	Clinical significance of fibroblast-specific protein-1 expression on podocytes in patients with focal segmental glomerulosclerosis.	Okayama S	第 1 内科
Int J Cardiovasc Imaging. (2012年)	Optimization of energy level for coronary angiography with dual-energy and dual-source computed tomography.	Okayama S	第 1 内科
Echocardiography. (2012年)	Primary Cardiac Lymphoma: Echocardiography and F-18-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography in Selection of a Biopsy Site.	Okayama S	第 1 内科
Europace. (2012年)	Non-contact mapping system accurately localizes right-sided accessory pathways in type B Wolff-Parkinson-White syndrome.	Nishida T	第 1 内科
Hypertension. (2012年)	Optimal antihypertensive level for improvement of coronary microvascular dysfunction: the lower, the better?	Mizuno R, Saito Y (4 authors, 3rd)	第 1 内科
Cancer Cell. (2012年)	Gene-targeting of phd2 improves tumor response to chemotherapy and prevents side-toxicity.	Leite de Oliveira R, Takeda Y (19 authors, 6th)	第 1 内科
J Am Coll Cardiol. (2012年)	A new drug delivery system for intravenous coronary thrombolysis with thrombus-targeting and stealth activity recoverable by ultrasound.	Kawata H	第 1 内科
Coron Artery Dis. (2012年)	High incidence of provoked coronary spasm in the presence of a stent after myocardial infarction: therapeutic and prognostic implications.	Katoh D, Saito Y (9 authors, 7th)	第 1 内科
Circ Cardiovasc Imaging. (2012年)	Nonculprit plaques in patients with acute coronary syndromes have more vulnerable features compared with those with non-acute coronary syndromes: a 3-vessel optical coherence tomography study.	Kato K, Uemura S (13 authors, 10th)	第 1 内科
J Am Soc Nephrol. (2012年)	Urinary FSP1 Is a Biomarker of Crescentic GN.	Iwano M, Saito Y (9 authors, 9th)	第 1 内科
Thromb Haemost. (2012年)	ADAMTS13 safeguards the myocardium in a mouse model of acute myocardial infarction.	Doi M, Saito Y (13 authors, 4th)	第 1 内科

小計  
18

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Kidney Int. (2012年)	Decreased renal $\alpha$ -Klotho expression in early diabetic nephropathy in humans and mice and its possible role in urinary calcium excretion.	Asai O, Saito Y (14authors, 14th)	第 1 内科
BMJ Case Rep. (2013年)	Unforeseen renal pathological findings in a patient with type 2 cardiorenal syndrome who died after four years of continuous ambulatory peritoneal dialysis.	Matsui M	第 1 内科
Intern Med. (2013年)	An Elevated Ratio of Placental Growth Factor to Soluble Fms-Like Tyrosine Kinase-1 Predicts Adverse Outcomes in Patients with Stable Coronary Artery Disease.	Matsumoto T	第 1 内科
Int J Cardiol. (2013年)	Hypertrophic cardiomyopathy and mesenteric venous thrombosis in a patient with Klinefelter syndrome.	Okayama S	第 1 内科
Life Sci. (2012年)	Attenuation of glucose-induced insulin secretion by intermittent hypoxia viadown-regulation of CD38.	H Kimura	呼吸器・アレルギー・血液内科
J Toxicol Sci. (2012年)	Changes of ghrelin and leptin levels in plasma by cigarette smoke in rats.	H Kimura	呼吸器・アレルギー・血液内科
J Asthma. (2012年)	Association between Episodes of Upper Respiratory Infection and Exacerbations in Adult Patients with Asthma.	H Kimura	呼吸器・アレルギー・血液内科
J Anti Aging Med. (2012年)	Tobacco, Cardiopulmonary Vascular Disease, and Aging.	H Kimura	呼吸器・アレルギー・血液内科
PLoS One. (2012年)	Ghrelin treatment of cachectic patients with chronic obstructive pulmonary disease: a multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled trial.	H Kimura	呼吸器・アレルギー・血液内科
Eur Respir J. (2012年)	Reduced larger VWF multimers at dawn in OSA plasmas reflect severity of apneic episodes.	H Kimura	呼吸器・アレルギー・血液内科
Sleep Breath. (2012年)	Breathing irregularity during wakefulness associated with CPAP acceptance in sleep apnea.	H Kimura	呼吸器・アレルギー・血液内科
J Toxicol Sci. (2012年)	Suppressed anti-oxidant capacity due to a cellulose-free diet declines further by cigarette smoke in mice.	H Kimura	呼吸器・アレルギー・血液内科
Anat Rec (Hoboken). (2013年)	Distribution of collagen fiber orientation in the human lung.	H Kimura	呼吸器・アレルギー・血液内科
Circ J. (2013年)	Oral administration of a novel long-acting prostacyclin agonist with thromboxane synthase inhibitory activity for pulmonary arterial hypertension.	H Kimura	呼吸器・アレルギー・血液内科
Hepatology (2012)	Fibronectin is essential for survival but is dispensable for proliferation of hepatocytes in acute liver injury in mice.	Moriya K	第3内科
Hepato Res. (2012)	Dual blockade of angiotensin-II and aldosterone suppresses the progression of a non-diabetic rat model of steatohepatitis.	Noguchi R	第3内科
Hepato Res. (2012)	Dual blockade of angiotensin-II and aldosterone suppresses the progression of a non-diabetic rat model of steatohepatitis.	Noguchi R	第3内科
Digestive Diseases and Sciences. (2012)	Innate immune reactivity of the ileum-liver axis in nonalcoholic steatohepatitis	Tsujimoto T	第3内科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Current Medicinal Chemistry. (2012)	Possible involvement of angiogenesis in chronic liver diseases: Interaction among renin-angiotensin-aldosterone system, Insulin resistance and oxidative stress	Kaji K	第3内科
Hepatology Research. (2012)	Decreased plasma ADAMTS13 activity during moderate to much consumption ethanol in healthy volunteers: Differences between normal and heterozygous mutant aldehyde dehydrogenase-2 alleles	Matsuyama T	第3内科
Hepatology Research. (2012)	ADAMTS13 activity may predict the cumulative survival of patients with liver cirrhosis in comparison with the child-turcotte-pugh score and the model for end-stage liver disease score	Takaya A	第3内科
Molecular Medicine Reports. (2012)	Combination of branched-chain amino acid and angiotensin-converting enzyme inhibitor improves liver fibrosis progression in patients with cirrhosis	Yoshiji H	第3内科
Hepatology Research (2013)	Dual blockade of angiotensin-II and aldosterone suppresses the progression of a non-diabetic rat model of steatohepatitis	Noguchi R	第3内科
Oncology Reports (2013)	Branched-chain amino acids suppress the cumulative recurrence of hepatocellular carcinoma under conditions of insulin-resistance	Yoshiji H	第3内科
J Gastroenterol Hepatol (2013).	Cross talk between toll-like receptor-4 signaling and angiotensin-II in liver fibrosis development in the rat model of non-alcoholic steatohepatitis.	Shirai Y	第3内科
Hepatol Res (2013).	Direct renin inhibitor, aliskiren, attenuates the progression of non-alcoholic steatohepatitis in the rat model.	Aihara Y	第3内科
Journal of Gastroenterology and Hepatology Research (2013)	High hemoglobin level predicts non-alcoholic fatty liver disease in Japanese women	Akahane T	第3内科
Intern Med. 51 (7) : 799-802, 2012	Characterization of dermatomyositis with coexistence of anti-Jo-1 and anti-SRP antibodies	Sugie K	神経内科
Neuro Endocrinol Lett. 33 (8) : 757-760, 2012	Chronic severe axonal polyneuropathy associated with hyperthyroidism and multivitamin deficiency	Sugie K	神経内科
J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2012 Apr; 83 (4) : 469-70	Myasthenia gravis can cause camptocormia	Kataoka H	神経内科
J Neurol. 2012 Jun; 259 (6) : 1229-30	Focal pseudohypertrophy of the left hemi-tongue.	Kataoka H	神経内科
J Clin Neurosci. 2012 Apr; 19 (4) : 624-7	Painful abdominal contractions in patients with Parkinson disease.	Kataoka H	神経内科
Eur Neurol. 2012; 68 (5) : 276-8	Paradoxical gait at a narrowed entrance in a patient with Hoehn-Yahr stage III Parkinson's disease	Kataoka H	神経内科
Parkinsonism Relat Disord. 2012 Dec 26.	Reversible lateral trunk flexion treated with a rehabilitation program in a patient with Parkinson's disease	Kataoka H	神経内科
J Infect. 2013 Feb; 66 (2) : 201-5	Predictors of outcomes in acyclovir-treated limbic encephalitis	Kataoka H	神経内科
Alzheimers Dement. 2012 Nov 8.	Renin-angiotensin system blockers affect cognitive decline and serum adipocytokines in Alzheimer's disease.	Furiya Y	神経内科

小計

18

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Exp Ther Med (2012年)	Carnitine-induced senescence in glioblastoma cells.	Yamada S.	脳神経外科
J Stroke Cerebrovasc Dis (2012年)	Discriminant analysis prediction of the need for ventriculoperitoneal shunt after subarachnoid hemorrhage.	Yamada S.	脳神経外科
J Neurosurg (2012年)	Subarachnoid hemorrhage in a case of segmental arterial mediolysis with coexisting intracranial and intraabdominal aneurysms.	Matsuda R.	脳神経外科
J Neurosurg (2012年)	Awake mapping for resection of cavernous angioma and surrounding gliosis in the left dominant hemisphere: surgical technique and functional results.	Matsuda R.	脳神経外科
Cerebrovasc Dis (2013年)	Early inhibition of natriuresis suppresses symptomatic cerebral vasospasm in patients with aneurysmal subarachnoid Hemorrhage	Nakagawa I.	脳神経外科
J Clin Neurosci (2013年)	The neuroprotective effect of diazoxide is mediated by mitochondrial ATP-dependent potassium channels in a rat model of acute subdural hematoma	Nakagawa I.	脳神経外科
Neurosurgery (2013年)	The use of susceptibility-weighted imaging as an indicator of retrograde leptomeningeal venous drainage and venous congestion with dural arteriovenous fistula: Diagnosis and follow-up after treatment	Nakagawa I.	脳神経外科
Neurol Med Chir (2013年)	Post-ischemic administration of vascular endothelial growth factor inhibitor in a rat model of cerebral venous infarction	Matsuda R.	脳神経外科
J Hand Surg Eur	Long-term follow-up of periarterial sympathectomy for chronic digital ischaemia	Murata K	整形外科
J Bone Joint Surg [Br]	The use of a ceramic talar body prosthesis in patients with aseptic necrosis of the talus	Taniguchi A	整形外科
Int J Oral Maxillofac Surg 2012	Preoperative concurrent chemoradiotherapy for stages II-IV oral squamous cell carcinoma: a retrospective analysis and the future possibility of this treatment strategy	Kirita T	口腔外科
Biochem Biophys Res Commun 2012	Depression of p53-independent Akt survival signals in human oral cancer cells bearing mutated p53 gene after exposure to high-LET radiation	Nakagawa Y	口腔外科
Oral Sci Int 2012	Influence of mouth guards on autonomic nervous system activities: A quantitative study of pupillary flash responses	Ishida J	口腔外科
Anesth Prog 2012	Anesthetic consideration for masticatory muscle tendon-aponeurosis hyperplasia: a report of 24 cases	Yamamoto I	口腔外科
Med Oral Patol Oral Cir Bucal 2013	Effect of clenching on biomechanical response of human mandible and temporomandibular joint to traumatic force analyzed by finite element method	Murakami K	口腔外科
Br J Cancer 2013	Protumoral roles of melanoma inhibitory activity 2 in oral squamous cell carcinoma	Kurihara M	口腔外科
J Reprod Immunol. (2012年)	Peripheral RAGE (Receptor for Advanced Glycation Endproducts)-ligands in normal pregnancy and preeclampsia: novel markers of inflammatory response.	Naruse K	産婦人科
J Gynecol Oncol. (2012年)	Cut-off value of D-dimer for prediction of deep venous thrombosis before treatment in ovarian cancer.	Kawaguchi R	産婦人科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Open Journal of Obstetrics and Gynecology. (2012年)	Identification of interleukin-6 (IL-6) and squamous cell carcinoma (SCC) as amniotic fluid-specific markers.	Naruse K	産婦人科
Cell Medicine (2012年)	Hepatocyte is a sole cell type responsible for the production of coagulation factor IX in vivo	Tatsumi K, Shima M, et al.	小児科
Cell Transplantation (2012年)	Human hepatocyte propagation system in the mouse livers: functional maintenance of the production of coagulation and anticoagulation factors	Tatsumi K, Shima M, et al.	小児科
Journal of Neuropathology & Experimental Neurology (2012年)	Delayed maturation and differentiation of neurons in focal cortical dysplasia with the transmantle sign: analysis of layer-specific marker expression	Sakakibara T, et al.	小児科
Journal of Neurosurgery: Pediatrics (2012年)	Novel pathological abnormalities of deep brain structures including dysplastic neurons in anterior striatum associated with focal cortical dysplasia in epilepsy	Kaido T, Sakakibara T, et al.	小児科
Journal of the American College of Cardiology (2012年)	A new drug delivery system for intravenous coronary thrombolysis with thrombus targeting and stealth activity recoverable by ultrasound	Kawata H, Shima M, et al.	小児科
Journal of the Neurological Science (2012年)	Imbalance of interneuron distribution between neocortex and basal ganglia: consideration of epileptogenesis of focal cortical dysplasia	Sakakibara T, et al.	小児科
Journal of Thrombosis and Haemostasis (2012年)	Recombinant factor VIIa analog (vatreptacog alfa [activated]) for treatment of joint bleeds in hemophilia patients with inhibitors: a randomized controlled trial	de Paula EV, Shima M, et al.	小児科
Nature Medicine (2012年)	A bispecific antibody to factors IXa and X restores factor VIII hemostatic activity in a hemophilia A model	Kitazawa T, Shima M, et al.	小児科
Thrombosis and Haemostasis (2012年)	A putative inhibitory mechanism in the tenase complex responsible for loss of coagulation function in acquired haemophilia A patients with anti-C2 autoantibodies	Matsumoto T, Shima M, et al.	小児科
Thrombosis and Haemostasis (2012年)	ADAMTS13 safeguards the myocardium in a mouse model of acute myocardial infarction	Doi M, Shima M, et al.	小児科
Urology	Risk factors for new-onset overactive bladder in older subjects: results of the Fujiwara-Kyo study	A Hirayama	泌尿器科
World J Urol	Urinary BTA: indicator of bladder cancer or of hematuria	M Miyake	泌尿器科
BMC Urol	Minimal percentage of dose received by 90% of the urethra (%UD90) is the most significant predictor of PSA bounce in patients who underwent low-dose-rate brachytherapy	N Tanaka	泌尿器科
Radiat Oncol	Periodical assessment of genitourinary and gastrointestinal toxicity in patients who underwent prostate low-dose-rate brachytherapy	N Tanaka	泌尿器科
J Urol	Evaluation of Factors Influencing the Natural History of Nocturia in Elderly Subjects: Results of the Fujiwara-kyo Study	A Hirayama	泌尿器科
BMC Urol	Inhibition of COX-2 expression by topical diclofenac enhanced radiation sensitivity via enhancement of TRAIL in human prostate adenocarcinoma xenograft model	T Inoue	泌尿器科
Urology	Phosphorylation Status of Fas-associated Death Domain Protein Is Associated With Biochemical Recurrence After Radical Prostatectomy	N Tanaka	泌尿器科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Auris Nasus Larynx (2012年)	Hearing aids reduce overestimation in pre-fitting self-assessment	Nishimura Tadashi	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学
Anticancer Res (2012)	Hepatic arterial thrombosis: a critical complication during combination therapy of arterial chemoinfusion and sorafenib.	Nishiofuku H	放射線科
Neuroradiology (2012)	Accuracy for predicting adhesion between meningioma and the brain by using brain surface motion imaging: comparison between single and double acquisition methods.	Taoka T	中央放射線部
AJRAmJ Roentgenol (2012)	Unresectable Pancreatic Cancer: Arterial Embolization to Achieve a Single Blood Supply for Intraarterial Infusion of 5-Fluorouracil and Full-Dose IV Gemcitabine	Tanaka T	放射線科
Jpn J Radiol (2013)	Isolated fat-containing pancreatic metastasis from hepatocellular carcinoma.	Nishiofuku H	放射線科
CardiovascIntervent Radiol (2013)	Superselective particle embolization enhances efficacy of radiofrequency ablation: effects of particle size and sequence of action.	Tanaka T	放射線科
CardiovascIntervent Radiol (2013)	Iliac artery stent placement relieves claudication in patients with iliac and superficial femoral artery lesions.	Ichihashi S	放射線科
JVascInterv Radiol (2013)	Transcatheterarterialchemoembolization using cisplatin powder mixed with degradable starch microspheres for colorectal liver metastases after FOLFOX failure: results of a phase I/II study	Nishiofuku H	放射線科
Am J Physiol Dastrointest Liver Physiol (2012年)	Comparison of effect of a selective 5-HT reuptake inhibitor versus a 5-HT4 receptor agonist on in vivo neurogenesis at the rectal anastomosis in rats.	藤井久男	中央内視鏡・ 超音波部
J Cardiothorac Vasc Anesth 26 (2012年)	Evaluation of the neuroprotective effect of minocycline in a rabbit spinal cord ischemia model.	Watanabe K	麻酔科学 教室
Spine 37(12) (2012年)	Comparison between computed tomography-myelography and radioisotope-cisternography findings in whiplash-associated disorders suspected to be caused by traumatic cerebrospinal fluid leak.	Hashizume K	ペインセンター
Spine 37 (2012年)	Comparison of computed tomography myelography and radioisotope cisternography to detect cerebrospinal fluid leakage in spontaneous intracranial hypotension.	Hashizume K	ペインセンター
Neurol Sci. (2012年)	ADAMTS13-gene-deletion enhances plasma high-mobility group box1 elevation and neuroinflammation in brain ischemia-reperfusion injury.	Fujioka M	救急科
Neuroradiology (2012年)	Diffuse vascular injury: convergent-type hemorrhage in the supratentorial white matter on susceptibility-weighted image in cases of severe traumatic brain damage	Iwamura A	救急科
J Infect Chemother	Nationwide, multicenter survey on the efficacy and safety of piperacillin for adult community-acquired pneumonia in Japan	Keiichi Mikasa	感染症 センター
RESPIRATORY INVESTIGATION	Nationwide survey on the 2005 Guidelines for the Management of Community-Acquired Adult Pneumonia: Validation of severity assessment	Keiichi Mikasa	感染症 センター
J INFECT CHEMOTHER	Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the Surveillance Committee of Japanese Society of Chemotherapy, Japanese Association for Infectious Diseases, and Japanese Society for Clinical Microbiology in 2009: general view of the pathogens' antibacterial susceptibility	Keiichi Mikasa	感染症 センター
Int J HematoI	Clinical characteristics of human immunodeficiency virus-associated Hodgkin lymphoma patients in Japan	Kenji Uno	感染症 センター

小計

18

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J INFECT CHEMOTHER	Nationwide, multicenter survey on the efficacy and safety of piperacillin for adult community-acquired pneumonia in Japan	Keiichi Mikasa	感染症 センター
J INFECT CHEMOTHER	Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the Surveillance Committee of Japanese Society of Chemotherapy, Japanese Association for Infectious Diseases, and Japanese Society for Clinical Microbiology in 2009: general view of the pathogens' antibacterial susceptibility	Keiichi Mikasa	感染症 センター
Science 337: 1357-60, 2012	A critical period for social experience-dependent oligodendrocyte maturation and myelination.	Makinodan M	精神科
Psychiatry Res. 203(1):67-74, 2012	Increased binding of peripheral benzodiazepine receptor in mild cognitive impairment-dementia converters measured by positron emission tomography with [ <sup>11</sup> C]DAA1106.	Yasuno F	精神科
J Alzheimers Dis. 32(4):895-903, 2012	Combination of antioxidant supplements improved cognitive function in the elderly.	Yasuno F	精神科
Neurobiol Aging. 33(11):2633-40, 2012	Effect of plasma lipids, hypertension and APOE genotype on cognitive decline.	Yasuno F	精神科
Am J Geriatr Psychiatry. 20(7):574-83, 2012	Association between cognitive function and plasma lipids of the elderly after controlling for apolipoprotein E genotype.	Yasuno F	精神科
BMC Psychiatry 12:210, 2012	Brain structural changes and neuropsychological impairments in male polydipsic schizophrenia	Nagashima T	精神科
Transl Psychiatry. 2012 Aug 7:2:e146. doi: 10.1038/tp.2012.70.	Selective overexpression of Comt in prefrontal cortex rescues schizophrenia-like phenotypes in a mouse model of 22q11 deletion syndrome.	Kimoto S	精神科
Progress in Neuropsychopharmacology & Biological Psychiatry. 43: 7-13, 2013	Lower Prefrontal Activity in Adults with Obsessive-Compulsive Disorder as Measured by Near-Infrared Spectroscopy	Okada K	精神科
International Journal of Psychiatry in Clinical Practice 17(1):10-15 2013	Comparison of pervasive developmental disorder and schizophrenia by the Japanese version of the National Adult Reading Test	Ota T	精神科
Int J Geriatr Psychiatry. 2013 Mar 22. doi: 10.1002/gps.3950. [Epub ahead of print]	Association between depressive symptoms and metabolic syndrome in Japanese community-dwelling elderly: a cross-sectional analysis from the baseline results of the Fujiwara-kyo prospective cohort study	Morikawa M	精神科
J Gasterointest Surg	ejunal anastomotic leakage after elective gast	K. Migita	消化器・ 総合外科
Cancer Research	PCA-1/ALKBH3 Contributes to Pancreatic Cancer by Supporting Apoptotic Resistance and Angiogenesis	I. Yamato	消化器・ 総合外科
Hepatogasutroenterology	Postoperative Functional Evaluation after Pylorus-Preserving Nearly-Total Gastrectomy with jejunal Interposition for resectable	T. Tanaka	消化器・ 総合外科
The American Surgeon	Surgical outcomes for cancer at the gastroesophageal junction	S. Matsumoto	消化器・ 総合外科
Surg Laparosc Endosc Percutan Tech	Safety and Feasibility for Single-Incision Laparoscopic Cholecystectomy in Local Community Hospital: A Retrospective Comparison With Conventional 4-Port Laparoscopic Cholecystectomy	N. Ikeda	消化器・ 総合外科
Microbial Pathogenesis (2013年)	Selective induction of antimicrobial peptides from keratinocytes by staphylococcal bacteria.	R Ommori	皮膚科

小計

18



雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
-------	-----	-----------	---------

こと。

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 古 家 仁
管理担当者氏名	経営企画部次長 倉西 政勝、 医療サービス課長 福井 正人、 病院管理課長 峠 春樹

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録  病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		経営企画課 医療サービス課 病院管理課 薬剤部  電子カルテ	個々の患者の諸記録、各科の記録は電子カルテで一括管理。   処方せんについては薬剤部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	各種名簿、データによる管理	
	高度の医療の実績	医療サービス課 医療相談室、各診療部	各種データ（又は簿冊）による管理	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療部	各種データ（又は簿冊）による管理	
	高度の医療の研修の実績	総務課 各診療部	各種データ（又は簿冊）による管理	
	閲覧実績	実績無し		
	紹介患者に対する医療提供の実績	経営企画課 地域医療連携室	各種データ（又は簿冊）による管理	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画課 薬剤部	各種データ（又は簿冊）による管理	
	項規 第 一 号 に 掲 げ る 一 体 第 一 項 各 号 の 及 び 状 況 第 九 条 の 二 三 第 一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	各種データ（又は簿冊）による管理
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室	各種データ（又は簿冊）による管理
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室	各種データ（又は簿冊）による管理
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	各種データ（又は簿冊）による管理
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進室	各種データ（又は簿冊）による管理
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	各種データ（又は簿冊）による管理
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		医療安全推進室	各種データ（又は簿冊）による管理	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療相談室	各種データ（又は簿冊）による管理		

(様式第12)

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室	各種名簿、データによる管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室	各種データ（又は簿冊）による管理
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室	各種データ（又は簿冊）による管理
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室	各種データ（又は簿冊）による管理
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	各種データ（又は簿冊）による管理
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	各種データ（又は簿冊）による管理
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	各種データ（又は簿冊）による管理
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	各種データ（又は簿冊）による管理
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全推進室	各種データ（又は簿冊）による管理
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室	各種データ（又は簿冊）による管理
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全推進室	各種データ（又は簿冊）による管理
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全推進室	各種データ（又は簿冊）による管理

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び  
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 古 家 仁
閲覧担当者氏名	医療サービス課長 福井 正人 病院管理課長 峠 春樹
閲覧の求めに応じる場所	各課執務室内

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医 師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	81.4 %	算定期間	平成24年4月1日 ~ 平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	17,919人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	11,115人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,343人	
	D: 初診の患者の数	26,199人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## (様式第13-2)

## 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <p>医療事故の予防・再発防止対策並びに発生時の適切な対策など、本院における医療安全管理体制を確立し、適切かつ安全で質の高い医療サービスの提供を図ることを目的とした内容になっている。</p> <p>・医療安全管理に関する基本的な考え方 ・医療安全管理体制の構築 ・医療安全管理のための院内報告制度等の構築 ・医療安全管理に係る体制の確立 ・職員に対する安全管理教育・研修の実施 ・医療事故発生時の対応方法の確立 ・医療事故の公表 ・その他(医療従事者と患者との間の情報の共有等)</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 13 回
<p>活動の主な内容：</p> <p>安全管理に関する重要案件の審議を行い、医療安全管理のための基本方針を策定する。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 10 回
<p>研修の主な内容：平成24年度</p> <p>医療機器の安全管理Ⅰ「放射線の安全管理について・MRⅠ検査時の安全管理について」 医療機器の安全管理Ⅱ「術後疼痛管理とPCA」 特別講演「人は誰でも間違える」 特別講演「うそをつかない医療」 事故防止集中セミナー「見方を変えて、危険を見つけて、事故防止！！」 医薬品の安全管理Ⅰ「これで安心!? 転ばぬ先の眠剤使用」 特別講演「医療人のやりがい作り」 医療機器の安全管理Ⅲ「人工呼吸器関連事故対策と呼吸サポートチーム(RST)」 DVD研修「医療の安全を語る」 医薬品の安全管理Ⅱ「ハイ！ リスクです！」</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無 )</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>報告制度を当然の業務として全職員に認識させ、各所属に対し報告内容及び結果がフィードバックしやすいシステムを構築する。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 4 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 2 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>所属職員： 専任( 4 )名 兼任( 2 )名</p> <p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全に係る活動の調整、記録物等の作成保管、医療安全管理委員会への報告等。</li> <li>・医療事故及びインシデントに関する診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導。</li> <li>・医療事故等の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導。</li> <li>・医療事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導。</li> <li>・医療安全に係る情報提供及び連絡調整。</li> <li>・患者等や職員からの医療・診察の安全に関する相談及び連絡調整。</li> <li>・呼吸サポートチームの活動の調整、記録物等の保管、医療安全管理委員会への報告等。</li> <li>・その他医療安全対策の推進に関する活動。</li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>病院としての院内感染に対する考え方、院内感染防止委員会の設立とその目的・方針、職員や患者に対する取り組みなどを記載。</li></ul></li></ul>	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>病院としての院内感染対策の立案・教育・啓発活動を決定し実行。</li></ul></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 13 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>職員に感染対策として周知・徹底したい知識や方法をテーマとして取り上げ講習会を開催。</li></ul></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無 )</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>各診療科や病棟に院内感染対策実務職員を指定し、院内感染発生時の連絡役や感染における対策等を各所属に伝える窓口として配置。</li></ul></li></ul>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容：  これで安心!? 転ばぬ先の眠剤使用 (H24. 9. 25) ハイ！リスクです!! (ハイリスク薬の取り扱いについて) (H25. 2. 27)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (○有) ・ 無 )  ・ 業務の主な内容(医薬品安全管理責任者)：  医療安全管理委員会にメンバーとして毎月出席。研修会や必要に応じて手順書の改定を実施。手順書の遵守確認をリスクマネージャーに依頼、チェック票を回収。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有) ・ 無 )  ・ その他の改善のための方策の主な内容：  製薬会社・インターネット等により収集し、電子カルテにより情報を周知に努めている。	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器の安全管理Ⅰ ～放射線の安全管理について・MRI検査時の安全管理について～ (H24.5.23～25 766名)</li> <li>医療機器の安全管理Ⅱ ～術後疼痛管理とPCA～ (H24.6.25 294名)</li> <li>医療機器の安全管理Ⅲ ～人工呼吸器関連事故対策と呼吸サポートチーム(RST)～ (H24.12.13 215名)</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の作成 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>人工心肺装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器</li> <li>診療用高エネルギー装置、診療用放射線照射装置</li> <li>麻酔器、電気メス、レーザーメス、シリンジポンプ、輸液ポンプ</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に関する情報についてはPMDA医薬品医療機器総合機構HPより医療機器に関する情報を入手し、医療安全推進室より情報発信している。また、メーカーより直接医療機器安全責任者宛に送付される情報も同様の方法で該当診療科に発信している。H24年度より電子カルテのHPより発信している</li> </ul> </li> </ul>	